

ひ がた 干潟の環境

干潟とは、干潮のときに水面から顔を出す、まとまった広さをもった砂浜や岩の集まった磯のことをいいます。遠浅の海岸や大きめの川の河口、大きな川の下流の川岸などにできる環境で、満潮のときは水の中に沈んでしまいます。

大阪府の沿岸部は、港湾などほとんどが人工的な場所になってしまいましたが、泉南市の男里川河口、淀川や大和川河口の一部などに干潟が出現します。また、南港野鳥園には人工的に干潟がつくられました。他の環境ではみられない干潟特有の生きものがたくさんすんでいて、全国的にもその重要さが注目されています。大切にしたい環境のひとつです。

おのさとがわ 男里川河口

男里川は、河口付近に比較的広い干潟が広がり、ヤマトオサガニ、ハクセンシオマネキ、アシハラガニ、カクベンケイガニ、アカテガニ、ハマガニなどたくさんのカニ類や、これらをエサとするチュウシャクシギ、イソシギ、



おのさとがわ
119. 男里川河口

シロチドリ、メダイチドリなどのシギ・チドリ類などをみることができます。

カニ類のいくつかは、大阪府ではここにしかすんでいなかったのですが、最近になって淀川や南港野鳥園でもみつかっています。カニやエビの子供はゾエアとよばれるプランクトンで、海中を浮遊していますので、波にのって流れついた場所が適当な環境であれば、人工的な干潟であってもすみつくことができるのです。



120. ハクセンシオマネキ



121. アシハラガニ



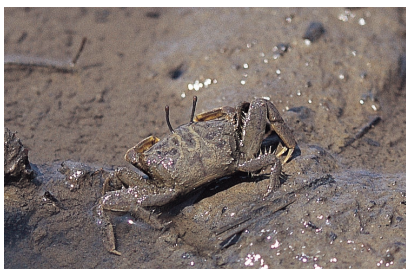
122. イソシギ



123. チュウシャクシギ

淀川の河口

淀川の河口干潟は、川岸にあらわれる小さい規模のものです^{きほ}が、カワザンショウガイ、ヤマトシジミやクロベンケイガニ、アカテガニ、アシハラガニ、ヤマトオサガニ、ハクセンシオマネキのほか、P. 8やP. 22でもふれたヒヌマイトトンボもここでみられます。また、干潟のヨシ原にはコバナナガカメムシ、ヨシウンカやジュウサンホシテントウ^{ひがた}、ジュウクホシテントウ、ヤマトヒメテントウ、ヤマトヒメメダカカッコウムシなどヨシとの関係が深い昆虫類もすんでいます。



124. ヤマトオサガニ



125. ジュウサンホシテントウ (上)

126. ジュウクホシテントウ (下)

